

第6回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

日 時 令和4年11月22日(火)

18:30～20:35

場 所 ハピネス

《農林課》

出席者(委員)：三津橋弘茂部会長、田中由紀子副部会長、範國貴裕委員、伊藤成人委員、
高松峰成委員、成田菜穂子委員

出席者(町)：古屋課長、高原主幹、今主査、斎藤主査、高野主査、倉澤主査

▽施策項目「農業」

事務事業名「産地生産基盤パワーアップ事業」

町：内容説明

委員：育苗ハウスの増棟について、生産者の規模拡大のためなのか、新規就農者のためのものなのかどちらか。

町：育苗ハウスがいずれの状況においても不足しているための措置である。

委員：育苗する人が増加したという認識で良いか。

町：その通りである。

委員：フルーツトマトの産地間競争は激しいのか。

町：競争は激しく、価格も低下傾向。相手のあることでもあるが、生食より単価は高額であり、依然として魅力が高い作物に変わらない。

委員：指標は個人の目標か町としての目標か。

町：町の目標である。生産者の技術力向上がメインと考えている。

委員：元年度の事業(農業振興事業)とはどのように異なるのか。

町：条例改正したので補助率が変わっている。従来のものよりは補助率が下がっており、上限額も下げている。

委員：耕種のほか、酪農家への補助は無いのか。

町：国のほうで現在検討中。国が方針決定した後、町の実情に見合った補助や対策を検討する。

- 委員 : 育苗ハウスの耐用年数は？また、ビニールの単価は。
- 町 : ビニールの耐用年数は10年ほど。パイプで20年程度。単価は150坪で300万円だったのが、今は500万円程度に上昇している。更新に対する補助は無いのかという声も聴くが、各自の利益から更新費用を賄うのが優先されるべきで新規就農者への補助が優先されると考えている。
- 委員 : 新規就農者に施設更新や修繕計画のアドバイスはあるのか。
- 町 : 営農相談員も含め、先を見据えたアドバイスを行うようにしている。

▽施策項目「農業」

事務事業名「就農準備資金・経営開始資金事業」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 所得600万円というのはどういう位置づけか。
- 町 : 所得600万円を確保するには売り上げで1500万円以上は必要になる。
安心して就農から6年目を迎えてもらうように考えていくための事業である。
- 委員 : 新規就農者の内訳構成は。
- 町 : 現在5軒の研修生がいる。畜産3軒、フルーツトマト2軒。年齢構成は30歳から45歳くらいの方が多い。
- 委員 : 新規就農者とのマッチング方法はどのようなものか。
- 町 : 現状は公社からの紹介が多くを占めている。
- 委員 : 夫婦が多いのか。
- 町 : ほとんどが夫婦で来られるが、家族連れや単身の方もいる。
- 委員 : 農家を引退する人との承継はうまく回っているのか。
- 町 : 誰かに引き継いでほしいと思っている方に、今の新規就農者の方々の事例を成功事例としてみてもらえるよう取り組んでいる。現状の軒数を今後も維持できるようにしたい。また、農家の話を小まめに聞いて情報提供できるようなシステムづくりを行いたい。酪農については、新規就農者は入りやすい環境でもある。

▽施策項目「農業」

事務事業名「基幹産業人的資本事業」

- 委員 : オンラインサロンなどとタウンプロモーションとの連携方法、具体的な成果は何か。
- 町 : タウンプロモーション推進部と似ているが、移住メインとなり、シニアの方は働き手としてではない形で成果は果たしている。農林業については、移住者は働き手ではなく、働き方のご紹介をしていく。具体的な成果目標は就業者の確保とする。
- 委員 : 業務委託先はどちらか。
- 町 : 事業協同組合に委託している。今年度は仕組みづくりを進めており、来年度以降は運用となる。実施方法は業務委託以外に直営も想定しており、一部プロボノとして人件費はない形でご協力いただいている。
- 委員 : プロボノはどのような方か。
- 町 : IT系の方、人事部のノウハウも利用できる。
- 委員 : 特設サイトはあるのか。
- 町 : 作成中である。
- 委員 : どのような就業を想定しているのか。
- 町 : 就農や林業に就業などを想定している。マルチワーカーのような形で全体の労働力の確保を進めたい。
- 委員 : 求人の方はどうなるのか。
- 町 : タウンプロモーション推進部と連携して進めたい。
- 委員 : 下川町にくる人は何かしたい人と考えるが、そうではない人を探すということか。
- 町 : どちらもある。
- 委員 : 林業林産業の担い手不足と関連はあるのか。
- 町 : 林業の魅力を伝えることは考えている。
- 委員 : マルチワーカーの働き方で全体としてうまくいくように願っている。

▽施策項目「農業」

事務事業名「農産物加工研究所運営事業」

- 町 : 事業協同組合の元来の事業が輻輳（ふくそう）し、その中にトマトジュース事業をお任せするのではなく、令和6年4月1日以降でお願いしていく形で、1年間延長する形で渡せるように進めて参る。
- 町 : 経営の核となる人が揃えられるか、確保し、採用し育ていくことが、この3～4ヶ月間では難しいと判断した。機械類について、改修の優先度を役場側で決定していくことは良いのか、いつ誰がやるのかを決定できていない現状がある。農業者を含めてご迷惑をかけないためにも、ソフトランディングをしていく。
- 町 : トマトジュースの品揃えも増やし、無塩のタイプによる健康志向の向上に対応した商品づくりも進めている。
- 委員 : 新商品の開発は事業協同組合としているのか。
- 町 : 役場の主導だが、情報共有しながら、受け渡し後にしっかりと販売してほしい。
- 委員 : 付加価値の向上はできているのか。
- 町 : トマトジュースにすると比較対象にされる。付加価値の向上はできている。農業者のトマトも高く購入している。
- 町 : 東京都では700円程度では売れているため、そのような商流に乗せていけていると感じており、施設の赤字以上に総合的な効果が町内では発生している。
- 委員 : 無塩は販売していないか。
- 町 : 食塩無添加のトマトジュースは作らず、商いの流れに逆らってきたが、試験的に製造した。商談会では需要はあり、出せば売れる商品であると感じている。
- 委員 : 無塩は活用方法あるので発信方法を検討してほしい。受託製造は何か。
- 町 : 製造終了後の農業者のトマトジュース作りなどとなる。

- 委員 : 無塩を避けた理由は何か。
- 町 : 無塩は十数年前にしていたが、卸先の事業者の不払いなどがあり、在庫を捌くことによって処分を進めたことによって横槍が入り、自粛していた時期があった。

▽施策項目「農業」

事務事業名「農産物加工研究所施設整備事業」

- 町 : 10年経過しているボイラーを、バックアップのための2機体制を考えている。産業用プリンターは賞味期限を印字するもの、ガラスにインクを付着させ、特殊なインクを利用していたが、代替のインクはなく、賞味期限を打つすべがなくなるため更新する。令和6年度は数値入っていないが、事業協同組合様との協議をした中で今後決定していく。令和5年度に最低限の改修を進めていきたい。
- 委員 : フォークリフトは2台あったのか。
- 町 : もう一台は平成7年のものである。
- 委員 : 優先順位は事業協同組合と相談しなくて良いのか。
- 町 : 寿命の短いものから改修していく。
- 委員 : 産業用プリンターは高価なものか。
- 町 : 300万円程度。

▽施策項目「林業・林産業」

事務事業名「苗木生産体制構築推進事業」

- 町 : 循環型森林経営の再生林の苗木が不足しており、苗木生産施設を下川町内に持つことを検討している。農業用ハウスの余剰の利活用や町の遊休地の対策としても考えている。林業林産業研究会の中でも事業可能性調査や既存の苗木生産事業者との合意形成も進め、苗木生産の適地の検証も行う。旭川農業高校との人材交流をしている中で、実習の一部として苗木生産を進める。
- 委員 : 現時点で決まっていることはあるか。まっさらな状態か。
- 町 : まっさらである。広い視点で地盤固めを進めて考えていきたい。

委員 : 苗木の生産方法はどうか。

町 : 種苗法の制限の中で苗木生産をしている。ルールを守りながら方式については未知数である。関係者との情報共有を進めていく。苗木自体は足りていない現状にあり、伐採しても植林できない。工場的な苗木生産か畑の中での苗木生産なのか、ヒアリングをしながら進めていく。鳥取県日南町樹木育苗センターでは、12万本を4名体制で生産している。下川町は5万本を植林しており、育苗本数の増加により植樹本数も増加できる。

▽施策項目「林業・林産業」

事務事業名「新木材活用可能性調査事業」

町 : トドマツの低温乾燥を主体に、王子HD様と共同研究してきたが、王子HD体制変更により、その後も王子薬用様に施設利用しており、維持管理を進めていく。

委員 : 乾燥機は誰のものか。

町 : 下川町のものである。

▽施策項目「林業・林産業」

事務事業名「有害鳥獣捕獲従事者確保事業」

町 : 近年、ヒグマとエゾシカの出没件数は増加し、地元猟友会の体制も高齢化による弱体化があるため、地域おこし協力隊の採用を1名追加し、3名体制にすることで強化を図りたい。

委員 : 協力隊は何をするのか。

町 : ヒグマなどの捕獲や予防活動、住民に対する普及啓発やセミナー等を開催していく。

委員 : 基本的には年間従事となるのか。

町 : 基本的にはそうなるが、仕事が少ない時期もあるので、その時は農林の業務をしていただく。

委員 : 2名の内定と追加の1名のサポートをしっかりとお願いしたい。勉強会の開催や資格取得を推進してほしい。

- 委員 : 実際にどのくらいまで捕獲していいのか。
- 町 : 北海道ではエゾシカを現在の 67 万頭から 40 万頭程度に削減する目標を立てている。下川町内の生息数は正確には分からないが、エゾシカライトセンサス等を参考にし、農業被害や交通事故を減少させたい。ヒグマについては数の調整は行っておらず、被害防止のための捕獲のみとなっている。
- 委員 : 駆除頭数の制限はあるか。
- 町 : 北海道で設定している。
- 委員 : 農林業の施設内に来ない方法を考えることも必要と考える。
- 町 : 一の橋では馬に草を食べてもらうことでヒグマの出没数が減少しているので、何らかの活動を行うことでヒグマを近づけさせないのも一つの方法である。
- 委員 : 馬 1 頭では、すぐお腹いっぱいになってしまう。
- 委員 : 害獣以外を使用するのも良い。
- 委員 : アライグマの状況はどうか。
- 町 : 手が器用、うちの実家はぶどうを食べられた。美味しいのをアライグマが、美味しくないのは人間が食べている。駆除するには講習を受けていただく必要がある。アライグマは頭が良い。
- 委員 : 箱わなの講習会は定期的に行っているのか。
- 町 : 希望者が一人でもいれば随時対応している。